

第2回川崎市文化芸術振興会議市民ミュージアム部会 会議録（摘録）

- 1 会議名 川崎市文化芸術振興会議市民ミュージアム部会
- 2 日時 令和8年3月23日（月） 10時00分～11時30分
- 3 場所 川崎市本庁舎1603会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 藤嶋委員（部会長）、稲庭委員、中村委員、平井委員
 - (2) 事務局 (川崎市市民ミュージアム) 井上館長、古泉担当課長、金子担当課長
山崎担当係長、前崎職員
(市民文化局市民文化振興室) 井上担当係長
(学芸業務受託者) 佐藤学芸室長
- 5 議事
 - (1) 令和7年度事業の事業報告及び評価について
 - (2) 令和8年度事業計画について
 - (3) 被災収蔵品の修復活動の状況について（報告）
 - (4) その他
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴者 0名

■ 議事録

○ 開会

【井上館長挨拶】

【委員紹介・事務局紹介】

【会議の公開等】

【議事内容】

（事務局から、資料2 展覧会②「ハマ川崎—海と陸の狭間をたどる—」について説明）

平井委員 アンケートの回答の「来場理由(複数回答)」について、「その他」が27%、131件もある。「その他」の内容を知ることによって広報にも生かせると考えるが、内容を記載できるよ

うにできないか。

事務局 東海道かわさき宿交流館は、東海道歩きをしている方も来場されていた。アンケートには、「その他」の内容を記載する箇所があったが、記載いただけていない。来場者の方に聞き取ったなかで、東海道歩きで交流館に訪れ、館内の案内を見てたまたまハマ川崎展に立ち寄ったとのお話があった。

平井委員 交流館を使用する場合は時期によってそのような来場も見込めるが、他の場所を使用する場合はあまり参考にできない部分もあることが分かった。

稲庭委員 展示場所が小さく、交流館と一体的であることから市民ミュージアムの展示であることが分かりづらかった件について、こちらは恒常的、定期的を使用していくのか。適切な場所と考えているのか。それによって、アンケート結果をどう生かすのか、市民ミュージアムとしての展示を見せるのか、が違ってくると思うが、どのように考えているのか。

事務局 交流館を定期的、恒常的に使用する予定は特にはないが、長期的に使用できる場所があまりなく、今後とも協力いただくことは考えられる。なお、来年度は予定しておらず、別の場所を探してもいる。交流館で行う場合は、交流館のテーマとかけ離れた展示をするのではなく、市民ミュージアムの企画と交流館の目的が合致するような内容を実施できれば、と考えている。

稲庭委員 展示空間については、市民ミュージアムの展示と分かるように展示することで認知度も上がっていくし、アンケートの活用方法も変わってくると思うので、このような点も踏まえてご検討いただきたい。

平井委員 図録の販売場所について、アンケートの回答で「図録が決まった時、決まった場所でしか買えないのは不便。交流館又は市役所で販売できるようにしてほしい。」とあるが、これはご指摘の通りの状況だったのか。

事務局 オンラインでの販売が基本で、交流館で講演会等イベントがあるときに臨時的に販売した。

平井委員 もどかしい状況。オンラインに不慣れな方は買いづらい状況であったかもしれない。

藤嶋議長 本展の評価は十分に達成の「A」で良いか。

各委員 「A」でよい。

(事務局から、資料2 展覧会③「英伸三 映像日月抄」について説明)

藤嶋議長 英伸三展について、川崎市らしい内容は良いのだが、場所が奥まっけていて分かりづらい、迷いやすいところがあった。

平井委員 アンケートの「今回の展覧会を何で知ったか(複数回答)」について、こちらも「その他」が17%と割合が高い。あまりないことと思う。内容を書けるようになっていたり、補足説明があればお願いしたい。

事務局 近隣のお祭りの際に呼び込みを実施した。今後、その他の内訳を確認できるようにしたい。

平井委員 交流館のような来場は見込めないことはあると思うが、ミュージアムは立地が悪いところも多く、それを理解した上で行く人も多い。立地については、来場者数のインパクトファクターとして関わるかは不明。今回の場所は分かりづらくとも、駅から近い会場ではある

ので、情報のリーチする場所によってはもっと呼べたのではと思う。

50代以上が7割近く、SNSからの認知があまりない。若い世代に届いていなかったのでは、と思う。

良い感想をいただいているし、内容や満足度はよい。初めて使用する会場の認知度が高く、大勢に来てもらうということは難しいので、課題を認識して、今回の結果を受けもう使用しないということがないようにしてほしい。

藤嶋議長 場所はよいのもったいない。

事務局 アンケートの認知経路に「施設に来場したついで」が一定あり、会場付近に飲食店などがあったので、それらの利用者の方が来場した部分もあったと思う。

藤嶋議長 本展覧会の評価は概ね達成の「B」で良いか。

各委員 「B」で良い。

(事務局から、資料2 展覧会④「袴田京太郎 隠された、」について説明)

平井委員 開催中ということで、アンケート結果はまだないということか。

事務局 おっしゃる通り。

稲庭委員 ワークショップは昨日開催され、まだ結果報告がないようだが、雰囲気を教えてほしい。

事務局 アンケートは後日メールでいただくことになっている。視覚障害がある方が多く、その場で記載して提出いただくことが難しかった。ワークショップは、視覚障害がある方と健常者が作品について話し合うもの。3メートルほどの袴田氏の作品などについてどのような見え方か50分程度話し合った。視覚障害がある方と健常者が対話によって作品について共通認識を作っていくもので、積極的な意見が多く、時間いっぱい話し合う活発なワークショップとなった。

稲庭委員 一般の申し込みはどうであったか。

事務局 ほぼ定員となった。

藤嶋議長 ワークショップ会場は袴田氏の展示している場所であったのか。

事務局 まず別の会場で自己紹介などを行い、その後展示会場で実施した。

平井委員 初めて美術作品の展示を行い、コンパクトであったが、個人的には良い展示だったと思う。市役所で現代アート、空間演出された展示を見ることがなかなかない。復元棟は歴史に関する展示もあるが、並びで見ると異質であったし、美術館で見るようなものが市役所の一室で見られるのは非常に良いこと。

市役所は来庁者が多い一方で、Museum+205に引き込む努力が足りていないように思う。サイネージ等は復元棟の雰囲気にも影響する点もあると思うが、奥まった場所に人を引き込む努力をして、ぜひ継続してほしい。矢印を貼る等。

藤嶋議長 新たなミュージアムが開館してもこのような展示は継続していただければ面白いと思う。

事務局 新たなミュージアム開設地は市の北部となるので、南部にサテライトという形で続けられればと考えている。本物の美術作品を展示するため監視を付ける必要があったり、時間を短めに設定したり庁内に掲示をすることが庁舎管理の面から制約があったが、大切な場所と認識しているので、広報の努力を頑張りたい。

稲庭委員 目標は800人とあるが、Museum+205ならもっと人を呼べると思う。まだ観覧していないが、このような展示を継続してほしい。

平井委員 神奈川県下では、逗子市役所での展示事例、昨年12月に浅田政志氏が開成町で撮った写真を開成町役場で展示した事例があった。庁舎での展示は休日の管理が難しく、人が一番来る日曜は休館しているデメリットも聞かれる。最近は庁舎で現代アートなどが見られる機会が増えてきた。Museum+205は休日も開いているし、今後も継続してほしい。

藤嶋議長 本展覧会の評価は概ね達成の「B」で良いか。

各委員 「B」が良い。

(事務局から、資料2 展覧会⑤オンライン「長田奈緒 風景としてのスティルライフ」、展覧会⑥オンライン「多摩川を渡る 六郷橋と六郷渡船」、展覧会⑦オンライン「線からみつける、かたちの再発見」、展覧会⑧「第59回かわさき市美術展」について説明)

平井委員 必ずしも来場者の目標値に達していないからよくない、ということではないのは大前提だが、目標値の設定方法について、高めに設定する目標がある一方、挑戦的なもの、達成が難しいと感じるものは目標値を低めにする等、設定の手法を変えることで引き立つものもあるのでは。PVの目標を立てるのは難しいと思うが、リアルな展覧会だと終期に向かって来場者が増加することもあるが、オンラインの場合は、残り1週間で伸びるのは難しいと思う。このような点をどのように考えているのか。

事務局 2月末からオンラインイベントとして「あやかし探しオンライン」を行っている。企画展のページにあやかしの画像が隠れており、それを探すもので、上映会のようなリアルなイベントでQRコードを表示する等広報し、オンライン展に誘導できるよう工夫しているところである。目標値については、事業内容にあわせて設定するような手法を行ってこなかったため、来年度以降前年度実績だけでなく達成できるかの点でも検討したい。

平井委員 博物館法の改正に伴い、デジタル活用、デジタルアーカイブは新たなミュージアムが開館してもなくなるものではないと思う。オンライン分野を教育普及活動に転換するなど。オンライン展示は、1つの展示について1つの解説、のような形で終わりがちだが、ストーリー性を持たせ、リアルな展示のようにリッチな内容にするよう、今どこも試行錯誤しているところだと思う。今、館を持たない中で、今手さぐりでやっているものを、オンライン事業・デジタル事業に転換していけるか、ということは今チャレンジする機会であると思うので、挑戦して行ってほしい。

中村委員 今オンライン展を見てみたが、オンラインではあるが、このページを実際に見た方は色々な知見や感情を持てる内容になっていると思う。SNSについて、1000人以上フォロワーがいるのに投稿間隔が開いており、SNSの特性を生かした集客ができていないのでは、と思う。インスタならリール投稿、キャプションを充実させることが考えられる。Facebookやインスタグラムでも投稿の傾向は変わる。若い人はFacebookを見ず、動画重視等傾向がある。展覧会の意義はオンラインでもリアルでもその場に来てもらうことだと

思うが、アンケートでも来場者の年齢が高く、若い人が少ないことについても、SNSを活用した広報をすることで変わってくるのでは。PV数は職員だけで稼ぐこともできてしまうが、市民の方に見ていただくという本筋から離れてしまう。SNSの運用や広報、集客だけがミュージアムの本筋でないことは重々理解しているが、SNSからHPのオンライン展に流入する人の流れもあると思う。来年度以降、PV数だけでない指標についても検討できると良いかと思った。特に修復状況のオンライン公開については、多くの人に見ていただきたいと思う。また、自分自身、拡散に協力できればと思う。

藤嶋議長 展覧会⑤～⑧の評価は概ね達成の「B」で良いか。
各委員 「B」でよい。

(事務局から、資料2 上映会②「川崎の記録ー神奈川ニュースで見る、川崎のうつりかわりー」、
上映会③「奇妙キテレツクレイジー！発明家チャーリーのおかしな映画」について説明)

平井委員 上映会③「奇妙キテレツクレイジー！発明家チャーリーのおかしな映画」について、学童利用者向けアプリという新たなチャンネルを開拓し広報できた点は評価したい。アンケート等から読めず難しいが、広報は当初から子ども向けを意識して、教育委員会を通じてチラシを配布する等、実施していったのか。学童を利用している方以外にも広報できたのか。
事務局 親子向けであったため、市政だよりの紙面で親子向けであることを打ち出した内容とした。こども文化センターでのチラシ配布、親子向けのニュースへ掲載し、そのような手法を実施した中で、学童利用者向けアプリも利用した。

かわさきイベントアプリというものはあるが、現在学校を経由した紙のチラシ配布はできない。

平井委員 学童に行っていない方も含めた学校向けのメーリングリストなど、広報ツールはないのか。

事務局 あることにはあるが、ハードルが高い。学校としては、色々な部署からの広報の要望のあるなか、本来の学校からの連絡が疎かにならないよう広報に対応してもらうことが難しい。今回学童利用者向けアプリはとても反響があったため、今後も適切な広報ツールを開拓していきたい。

平井委員 決して足りていないというわけではない。潜在的な需要があることが分かった。今回抽選となっており、潜在的需要を全て満たせるわけではない実情もある。とはいえ、親子向けイベントの需要があることが分かったと思うので、検討を続けていていただきたい。

中村委員 抽選結果の通知方法について、新たなミュージアムでは、電子チケットの導入は検討しているか。どのような方が申し込んでいるか分かるので、ミュージアムが行う他の事業への誘導もできる。郵送する手間を省くこともできる。

事務局 現時点では電子チケットの導入について、具体的なことは確定していない。他の館の事例等をみて検討していきたい。

中村委員 電子チケットが良いというわけではなく、来場者をリスト化できる手法が良いかと思う。

平井委員 現在、電子チケット、オンラインチケットについて調査しているところ。国立館でも外部のリソースに頼っているところが多く、内製化していない。海外の館だと自前でシステム

を持っていることも多い。色々なことができるため、本来そうすべきではと思っている。人が多い場合は入場者数をコントロールしたり、ダイナミックプライシング：日曜や特定時間の金額を高くして、人を分散させる、ということもできる。購入者にアンケートを流すなど。回答してもらえるかは別として、チケット購入者全員にアンケートを送付することができる。ある程度の来館者数が見込める館の場合は、オンラインチケットの導入は必須とっており、結論は出ていないが、研究しているところ。まとまったらご報告させていただければ。

藤嶋議長 上映会②～③の評価はそれぞれ十分に達成の「A」で良いか。

各委員 「A」でよい。

(事務局から、資料2 教育普及②「失われた風景よみがえる風景—多摩区の昭和—」、教育普及③「史跡めぐり 宮前区初山地域と本遠寺」、教育普及④ 社会科教育推進事業、教育普及⑤ 学びのサポートプログラムについて説明)

平井委員 教育普及④ 社会科教育推進事業に関して、教材送付が、昨年69、今年15となっているのは、教材の内容変更がなく、昨年受け取った場合は、今年度申し込みがなかったという理解でよいのか。

事務局 内容変更はない。今年度はたまたま教材送付のみでの申し込みが少なかった。

平井委員 昨年度は市内の学校の約半数が申し込んでいる。二ヶ領用水から遠方の学校もあるだろうが、来年度も利用実績は見込めるのか。

事務局 おおむね見込める状況。

平井委員 出張授業の数など見ても、この事業は十分に実施できているように思う。

藤嶋議長 教育普及②の評価は概ね達成の「B」、で良いか。

各委員 「B」でよい。

藤嶋議長 教育普及③、教育普及④、教育普及⑤の評価は十分に達成の「A」で良いか。

各委員 「A」でよい。

(事務局から、資料2 連携事業①「宮前区繋がる美術館」、連携事業②「紙くさぐさ」、資料3 令和8年度 川崎市市民ミュージアム事業計画(案)について説明、資料4 市民ミュージアムの主な収蔵品及びレスキューの状況について報告)

平井委員 資料4 市民ミュージアムの主な収蔵品及びレスキューの状況について、漫画等の数が多く、処分が多くなっているが、修復済みの数も増えてきて、処分と修復済みが半分以上となっているが、「1」の意味合いがものによって異なるため難しいとは思いますが、全体を100とすると、現時点の進捗状況はどのような想定か。

事務局 表現が難しい。博物と美術の「1件」の意味合いが異なるため。美術作品でいうと、例えばグラフィックポスター1枚を修復することで「1件」となるが、歴史の古文書の

「○家文書」などは「1件」のうちに1000点ほど含まれる場合もあり、膨大なリソースをかけて対応しても修復済が「1件」にしかならず、パーセンテージで表すのは難しい。被災から6年が経過し全体の状況が見えてきた部分もあるので、今後全て修復するのではなく、応急処置を行い修復不要や現状保管と判断することも必要と考えている。なかなかはっきりした説明は難しいが、新たなミュージアムに開館に向け、引き続き展示に資する資料の修復を進めていきたい。

平井委員 新たなミュージアムの計画も進むなか、兼ね合い等含め、どのような進行状況か気になった。単純な「1」が「1」でないということも理解はしている。

事務局 美術が終了して、最後に歴史が残り、やはり時間がかかると想定している。

稲庭委員 修復済みのものは、来年度市民に向けて様子を紹介していく予定はあるか。

事務局 再来年度、大きく展覧会ができるよう調整を始めているところ。

稲庭委員 その際に進捗の状況、修復の全体状況を市民に報告するのか。

事務局 やはり数で表すのは難しい。検討を始めたところではあるが、被災したところから、修復のプロセスなど今まで示せなかったものを示したいと考えている。

稲庭委員 他の館も関心があるところが多いと思われる。関係者も気になっているところ。

○ 閉会